

ニンジン新品种「寒紅五寸」の 特性と栽培の要点



雪印種苗(株) 千葉研究農場

松井 誠 二

寒紅五寸

1 はじめに

ニンジンの作型は千葉県を中心とする夏播き秋冬ニンジン、北海道・青森県を中心とする春播き夏秋ニンジン、徳島・千葉県を中心とする冬トンネル播き春夏ニンジンの3種類に大別できます(図1参照)。

その中でも、夏播き秋冬ニンジン是最も基本的な作型で、黒田五寸を中心に古くから栽培されていますが、最近ではF₁品種の改良が急速に進み、より秀品率が高い品種が望まれています。このたび、弊社より秀品率が高い夏播き秋冬ニンジンとして『寒紅五寸(かんべにごすん)』を新発表しましたので紹介いたします。

なお、寒紅五寸は全日本原種審査会(平成3年、千葉県農業試験場)で上位入賞し、高品質多収性が評価されました。

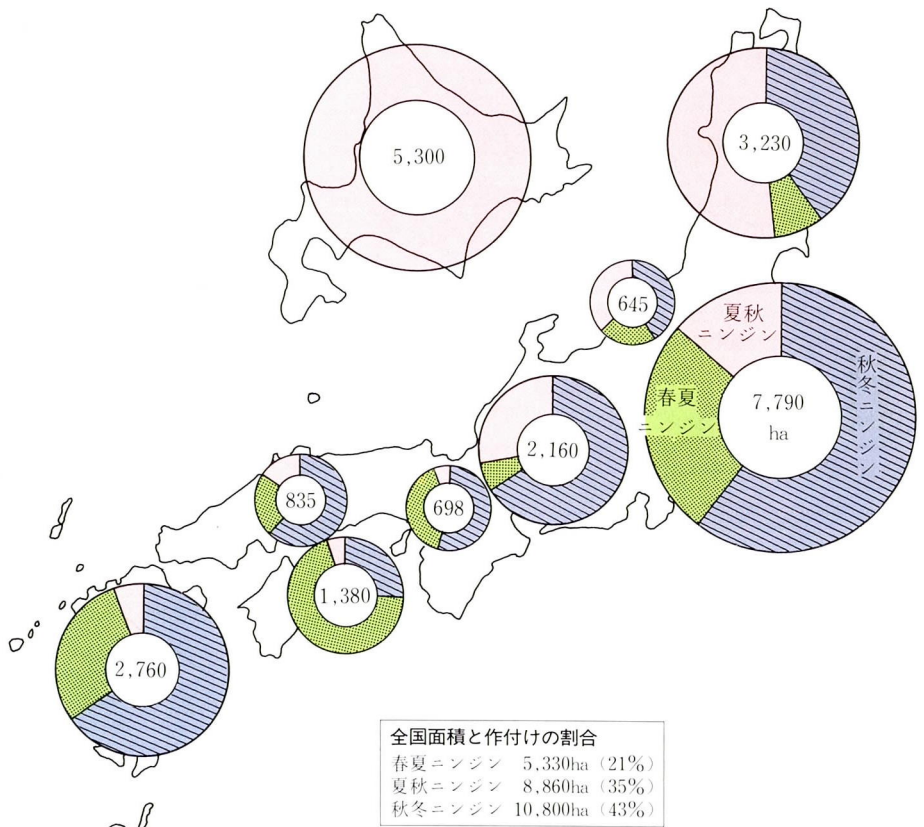


図1 ニンジン作型の地域分布(昭和61年)

2 秋冬ニンジン「寒紅五寸」の特性

＝裂根少なく、しみ症に強い
高品質多収のF₁品種＝

①生育 越冬どりタイプで、肉付きが良い安定多収型です。生育がやや早いので、年内ど

りも可能です。収量性として5 t/10 aが目安です(写真1, 表1参照)。

②草勢 草勢やや強く、黒葉枯れ病には極めて強いいため、栽培が容易です。耐寒性にも優れ、越冬栽培に最適です。

③根形 胴の肉付きが良く、根形はやや円筒形で、ボリューム感があります。根長18 cm, 根



写真1 ポリウム感がある『寒紅五寸』
施肥は標準~やや少なめとする

径5 cm程度で、揃いは良好です。

④根色 年内から着色が良く、美しい鮮紅色です。越冬どりでは特に根色が冴え、特徴的です。

⑤肌 肌は照りがあり、皮目は浅く、洗いがりがきれいです。特に畑地条件で高品質を発揮します。

⑥裂根、青首

年内~越冬どりでは根が完熟となり、裂根と青首が問題となりますが、寒紅五寸は肉質がやや固めで、吸い込み性のため、裂根、青首とも安定して少なく、秀品率と収量性を高めます。

⑦しみ症

秋冬ニンジンにおいて、しみ症は重要な病気で、その被害は深刻です。しみ症対策としては、土壌消毒と品種に頼るしかないのが実情ですが、寒紅五寸は現地試作の結果より、しみ症に強いことが確認され、秀品率と収量性を高めます。

3 「寒紅五寸」の栽培とポイント (図2, 3参照)

1) 播種適期

一般地(千葉県標準)
…8月上旬(5日~10日)
暖地…8月中~下旬
東北平坦地
…7月中~下旬

2) 播種方法

畦間70 cmの2条播き、株間は6 cmとします。東北平坦地ではベット5条播き、条間20 cm×株間12 cmを目安とします。

ニンジンは発芽が問題になりやすく、水分条件(特に乾燥)に敏感なので、雨上がりなどの適湿な時に播種し、

表1 寒紅五寸の生育特性

品種名	1本重 (g)	根長 (cm)	根径 (cm)	根形 (9~1)	揃い (9~1)	尻つまり (9~1)	根色 (9~1)	肌 (9~1)
【平成3年8月7日播種, 平成4年3月6日調査, 千葉研究農場】								
寒紅五寸	263	20.3	5.3	7.0	6.0	7.0	7.0	6.0
陽明五寸	223	20.1	5.1	7.0	5.5	6.0	6.0	6.0
紅泉2号	244	19.9	5.1	6.5	5.5	6.5	6.5	6.0
向陽2号	179	16.6	4.8	8.0	6.5	8.0	6.5	7.0
【平成3年8月2日播種, 平成3年12月16日調査, 千葉研究農場】								
寒紅五寸	248	18.7	5.3	6.0	5.0	5.0	6.5	6.0
黒田五寸	258	17.6	5.4	7.0	5.5	6.5	7.0	6.0
陽明五寸	242	18.4	5.3	6.0	5.5	5.0	6.0	6.0
紅泉2号	203	16.7	5.1	7.0	5.0	6.5	7.0	6.5
向陽2号	184	15.2	4.8	7.0	5.5	6.5	6.0	7.0
【平成4年7月15日播種, 平成4年11月6日調査, 青森県東北町】								
寒紅五寸	246	20.3	5.4	6.5	7.0	7.0	7.0	7.0
陽明五寸	257	19.6	5.2	6.5	6.0	7.0	6.0	7.5
武光五寸	188	20.1	4.7	6.0	6.5	5.5	7.0	6.5

注) 評点…根形: 9(やや円筒尻つまり)~1(円錐尖根), 揃い: 9(極良)~1(極不良)
尻つまり: 9(極良)~1(極不良), 根色: 9(濃紅色)~1(黄色)
肌: 9(極滑)~1(極粗)



図2 『寒紅五寸』の栽培暦（千葉県標準）

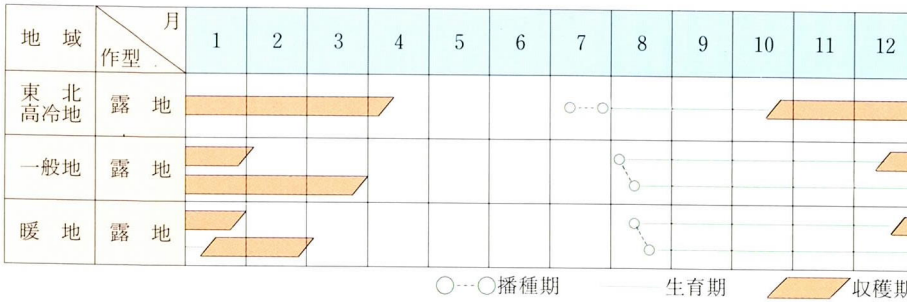


図3 『寒紅五寸』の栽培型

間引きは1回の場合、4～5葉期に行いますが、間隔は6cmを基本とします。寒紅五寸は粗植栽培には向かないため、この時にスタンドを揃えることが良品生産の重要なポイントになります。

4) 土寄せ

9月下旬に1回目をを行います。越冬収穫の場合は年内に2回目を行い、寒害防止を

鎮圧します。シーダー播種の場合は6～12時間浸漬してから播種します。コーティング播種の場合は播種深土をやや深め（10～15mm）とし、スプリンクラーによる散水を励行し、水分吸収を助けます。

3) 発芽～間引き（写真2参照）

ニンジン、一般に、発芽から間引き時期の4～5葉期ころまでは乾燥の被害を受けやすいので、かん水設備がある圃場はスプリンクラーで適湿に管理します。



写真2 発芽揃い良好な『寒紅五寸』
間引きは6cmを基本とする

ます。

5) 病害虫防除

9～10月にかけてキアゲハ、ヨトウムシ、アブラムシにダイブテックス、DDVP、エルサン乳剤などを1,000倍にして散布します。

9～10月にかけて黒葉枯れ、黒斑病にポリオキシンAL水和剤またはZボルドー水和剤を500倍にして散布します。

寒紅五寸は秋の長雨期でも黒葉枯れ病の被害が少ないため、葉の生育が順調に進み、根の太り・品質とも安定します。黒斑病は根冠の部分が黒変し、品質が低下する病気であるため、初期からの防除を徹底します。

4 施肥の考え方（写真3参照）

寒紅五寸は根、葉とも生育旺盛なタイプなので、施肥管理に当たっては下記の点がポイントになります。

早播きは根の肥大時期が9～10月と早くなりますが、温暖多湿条件により葉が繁茂しやすく、品質低下の原因となります。したがって、播種時期はやや遅めとし、千葉県では8月5～10日が適期となります。

適期播種では、根の肥大期（10～11月）が秋日和の温暖乾燥条件のため、葉の繁茂はほとんどな



写真3 『寒紅五寸』の施肥試験（化成のみ）

- ①N-P-K＝元肥 5-15-5、追肥 10-10-10
肥大期に葉が繁茂し、不揃いになる。
- ②N-P-K＝元肥 10-20-10、追肥 5-5-5
年内どりに向くが、元肥をもう少し抑えたほうがよい。
- ③N-P-K＝元肥 3-8-3、追肥 5-5-5
越冬どりに向く。
- ④N-P-K＝元肥 10-20-10、追肥 15-15-15
肥大期に葉が繁茂し、不揃いになる。

く、根の肥大が順調に進みます。ただし、残肥が多過ぎる圃場では肥料の後効きによって、根の肥大期に葉が旺盛になる場合がありますので、施肥量は標準～やや少なめを基本として下さい。また、初期生育は黒葉枯れ病に強くしっかりしており、元肥を多くして生育を促進させる必要はありません。

年内どり栽培の場合、元肥は標準量とします。葉の生育と根の肥大がバランス良く、しかも早く進みます。12月中旬には収穫期を迎えますが、このころに下葉が若干枯れる程度がよく、追肥は少なめがよいでしょう。ただし、基本的には越冬品種なので、気温が下がってからの収穫のほうが根色が冴えるため、無理な早どりは避けます。また、元肥が多過ぎると根の芯部が太くなるので注意します。

越冬～早春どりでじっくり太らせることによって品質が高まりますので、元肥はやや少なめとし、葉の生育を見ながら追肥の量を加減します。寒紅五寸は低温肥大性が優れるため、厳寒期どりで肉付きが良く、肌がきれいなニンジンを取ることができ

ます。3月上旬以降の収穫は気温上昇に伴う品質低下がありますので、適期収穫をします。

5 ニンジンの土作り

ニンジンには土壌の物理性に大きく左右され、根の揃い性、品質に影響し、品種の特性を発揮できないことさえあります。

第一に、耕土の深さがあります。五寸ニンジンは最低 20 cm くらいの膨軟な耕土層が必要とされ、ロータリー耕による 15 cm くらいでは、根形の乱れがみられます。耕土層を 30～40 cm に拡大すれば、根群の発達も良く、排水性の改善にも役立ちます。最近のニンジン畑は耕土層が浅い傾向にあり、排水不良によりニンジン根端部の脱色などがみられ、品質低下の原因となっています。

機械作業による耕土層の拡大は手間のかかる場所ですが、緑肥作物の根群を利用することによって耕土層の拡大が容易に行えます。

『ヘイオーツ』は深根性のイネ科緑肥作物で、50～60 日栽培で根は 60～70 cm にも深く伸びます。また、ソルゴーと異なり低温伸長性が優れるため、4 月播き 6 月すき込みが可能で、分解期間を十分にとることができ、土壌消毒（デイトラベックス油剤、D-D 剤）処理後、予定どおりニンジンを播種することができます（図 4 参照）。

ただし、ニンジンには播種時の乾燥条件を嫌うため、ヘイオーツすき込みによる圃場の乾燥化に留意し、梅雨時のすき込みと播種前の鎮圧を励行します。

また、『ヘイオーツ』はカタネグサレセンチュウに抑制効果を持つ対抗植物で、センチュウ対策にも役立ち、一石二鳥といえます。

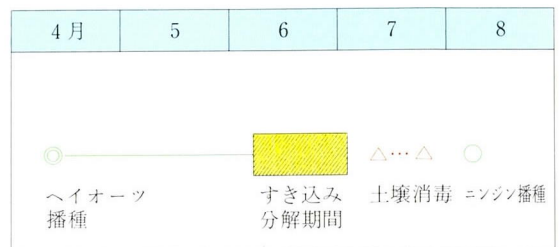


図 4 『ヘイオーツ』を利用したニンジン土作りの体系